

第十八表 ベヨネーズ礁 (Bayonnaise Rocks) 附近海底噴火

年 (西曆)	月 日	記 事
明治三十九年(一九〇六)	四月七日乃至十三日	<p>本月十四日伊豆青ヶ島ノ南東即チ「ベヨネーズ」岩ノ北東十湮以内(五六湮ナラントモ思ハレ或ハ七八湮ナラントモ思ハレタリ)ノ處ニ到リタルニ右ノ岩ノ極附近ニ於テ熾シク白煙ヲ噴出スルヲ認メタリ、其時刻ハ午前十一時頃ニシテ其以前ヨリ噴出シ居リシヤ否ヤハ不明ナルモ去ル三四日頃ニハ毫モ斯カル現象ヲ認メザリシニ付キ近日ヨリ噴出セル者ニ相違ナカルベク右ノ水蒸氣カト思ハル、白煙ハ午後ニ至リ其勢ヲ加ヘ船員ノ觀測ニ依レバ一千尺以上ニ達セシモノノ如ク翌十五日同所附近ヲ去リシマデハ噴煙少クシモ歇マズ同岩二十湮内外ノ所ニ於テ輕石ノ浮流スルヲ見受ケタリ。(梶浦技師ヨリ遞信省ヘノ報告)</p> <p>沖繩丸ガ本月七日八丈島附近ニ於テ工事中屢々「ベヨネーズ」列島附近ヲ通過セシモ當時ハ更ニ異狀ナカリシニ超ヘテ十四日午前四時頃「ベヨネーズ」列島ノ島ト島トノ間ヨリ夥シク噴煙スルヲ認メタリ。暴風雨ノ爲メ一旦房州館山灣ニ避難シ、翌十六日再ビ同島附近ニ赴キタルニ此時ハ噴煙全ク止ミ、前日噴煙シタル位置ニ於テ幅一海里、長サ二海里ノ海上ニ宛モ鹽塊ト輕石トヲ混合セシ如キモノノ隙間ナク浮流シ居ルヲ認メタリ。(明治三十九年四月二十六日時事新報)</p>

大正四年(一九一五)

六月十九日

遞信省海底電線布設船沖繩丸が四月十四日午前十一時頃北緯三十一度五十九分、東經百四十度七分附近ニ於テ作業中、西南ノ方約十哩ノ地點即青ヶ島ヨリ南微東約二十里ニ位スル「ベヨネーズ」礁ノ附近ニ當リテ白煙ノ噴騰スルヲ認メタリ、噴煙ノ直徑ハ大凡三百尺ノ上ニ出デ空中ニ立昇ル高サハ四百尺乃至千餘尺ニ達シ翌十五日同方面ヲ去リシ迄ハ噴煙歇ムコトナカリキ、而シテ噴出ノ場所ヨリハ盛ニ輕石ヲ浮流スルヲ認メ、其ノ浮流スル幅員ハ大約二哩ニ亘リ潮流ニ從ヒテ東方ニ向ヒ恰モ海中ニ白布ヲ展ベタルガ如クナリキ。

(震災豫防調査會報告第五十六號)
脇水理學士新島調査報告

ベヨネーズ列岩ノ東北約十哩、即チ北緯三十二度零分、東經百四十度五分ヨリ再ビ噴火セリ、發動機漁船大黒丸船長柳氏ノ報告及ビ見取圖ニヨルニ、十九日午前八時三十三分ニ第一回ノ噴煙アリ、午前十時二十五分第六回目ヨリ大噴出トナリ、海水ト岩石トヲ混ジテ拋射シ、「雲笠」ト稱スル横雲三個ヲ吹き上げ、其中央ヲ貫キテ火柱ヲ直上ニ立テタリ、十一時五十五分噴火最モ盛トナリ、午後零時半頃稍々鎮靜シタリ、翌二十日ニハ噴煙熄ミ何等ノ異狀ヲ認メザリキ。

(東洋學藝雜誌中)
震災豫防調査會記事

漁業船愛鷹丸ハ七月一日午後三時半「スミス」島ヲ出帆シ同島ト「ベヨネーズ」礁トノ中央ニ於テ午後五時頃西方約五里ノ所ニ於テ黃色ノ噴煙切リニ揚ガリ約一里ノ區域内ニテ煙ト共ニ海水ヲ捲揚ゲツ、アルヲ見タリ

(同上)

同 年(一九一五)

七月一日